

新型コロナウイルスによるひとり親の暮らし調査結果

2020年3月9日
NPO 法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ
3月12日追記

新型コロナウイルスの感染防止のため、今週から小中高特別支援校等の春休みまでの一斉休校がほぼ始まっている。突然の方針に、子育て世帯や関係者に激震が走った。

特に、ひとりで子どもを育てているひとり親と子どもたちにはどのような影響が出ているのだろうか？

シングルマザーと子どもたちを応援する「NPO 法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ」は、会員2800人にメールマガジンを使い、「新型コロナウイルスの一斉休校などでのひとり親と子どもたちの暮らし調査」のアンケートフォームを送り3月2日～3月5日にかけて232人の回答を得た。その速報をお伝えし、暫定的な提言も行いたい。

ちなみに、回答者は18歳以下の子どもがいるひとり親であり(別居含む)、第1子の年齢は小学校低学年55人、小学校高学年45人、保育園・幼稚園通園24人、中学生45人、高校生42人で、第1子がすでに大学生成人の子どもがいる親(第1子以下に小・中・高・保育園等に通う子どもがいる)数人であった。

小学生低学年の子のいる親の回答が比較的多かったのはこの層にこまりごとが集中している結果であると推測している。

学童に預けられない親がかなりいる

まず、子どもたちはどこで過ごしているのかを聞いた。

学童クラブに行っている 28

学校と学童 2

家で親と過ごしている 6

同居の親族がみている 8

自宅で子どもだけで過ごしている 3

遠方の親族がきてくれて子どもをみている 2

小学校低学年の子どもたちの親55人のうち、約半数の28人が子どもは学童クラブに通っており、また授業時間のあるうちは学校に登校している子もいた。在宅ワークになったり仕事が減って仕事にいかなくなった親と一緒にいる例もあったが、自宅で親族がみている、遠方から親族に来てもらい子どもをみられているひとり親もいた。

2月27日、「小中高特別支援校等の春休みまでの一斉休校」の一報を聞いた直後に「保育園と学童クラブが開かれる」と聞いて少しほっとしたのだった。しかし翌週から突然朝から子どもたちを預かるというのは大変なことだ。どうも実態は学童に登録していたすべての子を預かっているということでもないようなのだ。

学童クラブに預けられなかった人の中にはこんな声があった。

・小学校1年生の子供を持つ親です。学童も利用制限があり、再申請が必要で、書類の提出が間に合いませんでした。また、時間も17時までのため、仕事を時短または休暇の相談をしたところ、通常の春休み開始までの3週間は休暇になりました。そのため、家で一緒に過ごします

・具合が悪い子が出たりマスク無しで咳をしている子がいたり、37.5℃にならないように解熱剤を飲ませて来ているかも知れないと学童の先生に言われ来週から休んで欲しいと言われ来週から春休みが終わるまで仕事に行けなくなりました

学童クラブは場所も狭く(密度が高くなれば感染リスクも高くなる)、朝から子どもたちが来るためには支援員も確保しなければならない。そこで、この一斉休校時期には「なるべく休んでほしい」という要請が強く、「やむをえない人だけ」と言われたりする。また再申請が必要でできない親もいて、結局学童クラブに預けられずに仕事にいけない親がいて、一方では子どもだけで過ごしている、ということになる。

この学童クラブの開所を十全にするためには、職員体制を十分に行えたりする予算措置が必要である。

また学校のほうが広さも十分なので登校できるようにすることもひとつの方策であると思える。

また使いかつてのよいベビーシッター補助やファミリーサポート等の支援も必要だ。

その結果といってもいい。小学校低学年の子どもたち55人のうち約5%にあたる3人は、子どもだけで家にいた。

何歳から子どもたちはひとりで留守番ができるのだろうか。たぶん小学校高学年になってから徐々にできるようになるのだろう。30分だけの留守番から練習していき、徐々に1日でも大丈夫になっていくのは小学校5、6年生くらいかもしれない。

当然小学校低学年でひとりで過ごさせるのは親も葛藤が強い。

・勤務先の人員不足により、休むことができず、また勤務時間の調節も不可能なため子どもだけで留守番させることへの強い躊躇を抱えながらも出勤せざるを得ない状態。(パート、小学2年、1年)

・週 1 日程度は在宅勤務になった。その分出勤日の業務過多がひどく残業がやばい。寝ている子どもしか見ていない。結果子どもがお風呂に入っていない。(正社員、小学校 3 年)

小学校 3 年生の子の寝顔しかみられない。

このお母さんはこのあとに、「子どもが突然痙攣を起こすのが心配だ」と書いている

お弁当づくり、食事をおいていく親

食事についても聞いた。多くの親がお弁当を作って子どもにもたせるか、食事をつくりおいていた。

小学校低学年

お弁当をもたせている	29
食事を用意して出かけている	6
家で一緒に食べている	14
お米を炊いておく	2

小学校高学年

お弁当をもたせている	3
食事を用意して出かけている	7
食事を少し手を加えれば食べられるようにして出かけている	10
お米を炊いておく	1
家で一緒に食べている	6
子どもがつくっている	1
	28

お弁当あるいは昼食を毎日つくる生活が突然やってきたのでその食材の買い物や準備、費用、時間が必要となっている。お米や食材の支援があってもいい。

給食費については、就学援助と相殺されている家庭が多いので、支払いについての問題は

特に聞かれなかったが、突然食費が増えてしまっているという声は聞かれた。

休み中の子どもたちの工夫

- ・勉強時間やゲームの時間のルールを決めた
- ・朝はなるべく登校時と同じ時間に起こし、午前中は勉強させる。運動時間が少なくなりそうなので、家の前でなわとびなどを勧めているが、やってくれるかはわからない。
- ・ドリルを買った
- ・学校からの学習計画表(1日6時間授業として1ヶ月分)を本人が作成してその通りに過ごさせている
- ・午前中は、学校のように、九時から三時限をつくり、50分勉強10分休憩 用意したお昼を自分で温め食事。一日の課題ノルマがおわっていたら、ゲームや動画[]。夕方四時からそろばんへいく。ラジオ体操を1日一回はする。あとは、運動、公園、遊ぶこともわすれない。で計画的にきめました。
- ・まだ何もできていない。突然のことでどうすればいいかわからない。

保護者は学校に通学しているリズムをくずさないように、子どもに言い聞かせたり努力している様子がかがえる。一方で準備ができていない家庭もある。

ただ、10日経過した現状ではこうしたルールがくずれてきて、親子で爆発寸前という声も聞こえてきている(追記 3月12日)

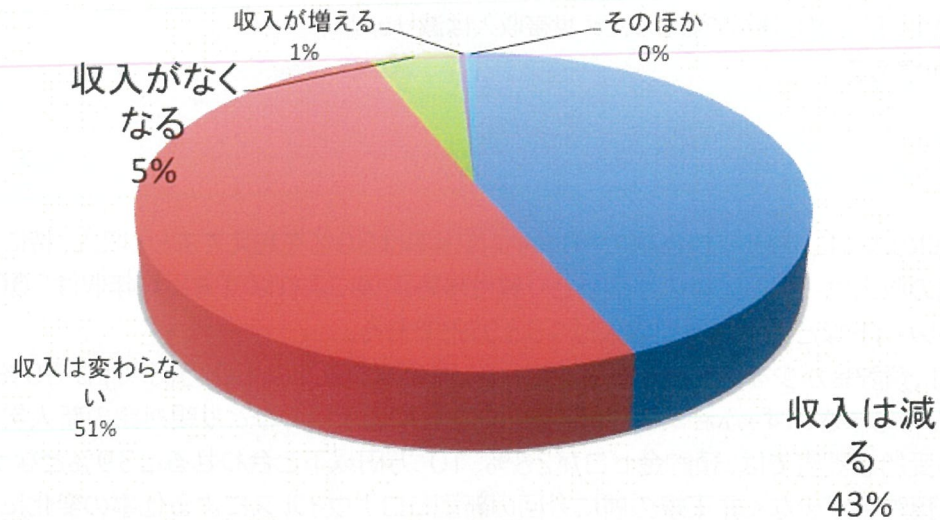
約半数が収入源、あるいは無収入に

では、新型コロナウイルスの感染予防のために、いったい個人の収入の変化はどのようなだろう。収入の見込みについて聞いた。

回答者の43%は収入が減ると答え、5%は収入がなくなると答えた。

収入は減る	95
収入は変わらない	111
収入がなくなる	11
収入が増える	1
そのほか	1
	219

新型コロナウイルスの影響によるひとり親の収入の変化の見込み (ひとり親232人への調査による)



- ・今の会社でパート5年間、正社員になって1カ月たつが、有給休暇とってる人も、その言葉さえも聞いたことはない。求人広告には 有給休暇ありと書いてあるけど。お金に変えられたこともない。
- ・子どもが自宅に長い時間ひとりであることが心配。仕事を2つ掛け持ちしているが、サービス業が自宅待機になる可能性があり収入が減ることが不安。
- ・仕事が少なくなったので、シフトや勤務時間を減らされた
- ・私の留守中 ずっと祖父が居るわけではないので、また家にいるけれど面倒をみることは あまりないのでお休みを増やして子供と居られる時間を増やす予定です。
- ・喘息体質の低学年児童がいます。休校中、咳が出ていると預かり禁止とされています。周りの目も厳しいです。花粉症からのアレルギー性喘息で、暫く咳は続くでしょう。親子とも辛いです。
- ・子どもを見てくれる人がいないので、仕事に行けなくなった(中1、病気)

社員は在宅出来ても非正規は出来ず、有給の日数も違うので、こういう事態で休むと給料減るし、なんで休むの？と言う感じになる。(小1)

・仕事を辞めるしかなくなった。子どもには発達障害があるので高学年でも兄弟と一緒に放置しておくことはできない。給食もなく本当に困っている。

支出が増える

- ・母が丸1ヶ月仕事を休んでもらうため世帯収入は減ります
- ・食費が増える

ご存知のように、ひとり親世帯の相対的な貧困率は50%を超えており、収入、特に母子世帯の母親の収入は 2016 年の全国ひとり親世帯等調査によれば就労平均年収は200万円、パートアルバイトなどの平均年間収入は 133 万円である。

さらに預貯金が少ないこともわかっている。同全国調査では 50 万円以下が50%であったが、しんぐるまざあず・ふぉーらむが実施したさらに低所得のひとり親対象の新入学お祝い金事業の受給者調査では、預貯金ゼロが23%、10 万円以下と合わせると39%となっていた。まさに預貯金が少なく非正規の層に今回の新型コロナウイルスによる仕事の変化による減収が直撃しているのである。さらに追い討ちをかけているのが、一斉休校であることは間違いない。

・一斉休校になって、子供を預けないとどうにもならない生活をしている惨めさや、親としての不甲斐なさを感じていて、鬱のようになっています。集団を避けなければならないとは分かりつつ、子供を集団の中へ入れ、職場では「帰らないの？」と心配されるものの、帰ってしまうと非正規雇用のため収入が減ってしまうので、バランスが全く取れずに困っています。

子どもを育てている親の場合、危ういバランスで子育てと仕事を両立させているのだが、今回の新型コロナウイルス感染の広がりにより、子どもの感染防止という親の責任がさらに重くなるとともに、一方では、収入を得なければならないという責任がより強くなっているのだ。

こうした傾向も、楽観的な親であれば「子どもはかかっても軽症だし」と笑っている親もいる一方で、子どもの健康を守らねばと必死になっている親もいるのが実情なのである。

また今回の調査では、収入の変化については聞いたが、支出増について聞いていなかったが、回答者の何人かは収入が減り、支出(子どもの昼食代、休みの間のドリルなどの勉強の費用、マスク、衛生費)などが増えることも大変だと指摘していた。

ではひとり親の要望にはどのようなものがあるだろうか。

要望事項

- ・休業保障をしてほしい、
- ・児童扶養手当を2倍にしてほしい、
- ・子どもが安心していける場所を増やしてほしい、
- ・雇用保険に入っていない人にも休業保障をしてほしい、
- ・有給休暇を取得できるように(あるいはたくさん取得できるように)してほしい、
- ・ベビーシッターを使いやすくしてほしい

こうした希望を多くのひとり親が書いていた。

また在宅就労のためのスキルを身につけたいという人もいた。

政府は今回企業が新型コロナウイルスの影響による休み、一斉休校による休業などでの休業保障をした場合は、1日8330円まで保障するとしている。だがそもそも企業が新型コロナウイルスの影響による休みとして休業を有給にするのだろうか。

あるいは自営業の親たちは、どうするのだろうか。

改めて思うのは、こうした間接的な援助よりも、直接的な所得保障の仕組みをつくることこそ重要ではないか、という点だ。

すでに直接的な手当支給のスキームとして子どもたちへの児童手当やひとり親世帯への児童手当がある。この児童扶養手当へ上乘せ支給をすることは仕組みとしては成り立つ。

せめてもの救いは、3月に児童扶養手当の支給があることではあるが、しかし、その先が苦しい。

休業保障のいくつもの穴を塞いでいくよりも、思い切って、児童手当や児童扶養手当のスキームを使うことを検討してもらいたい。

